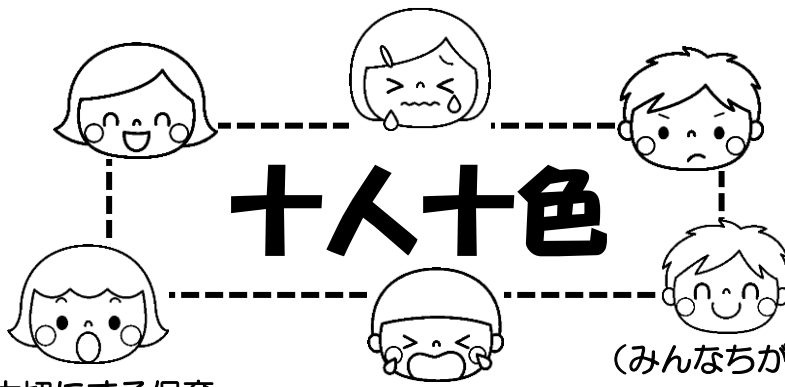


7月



令和元, 6, 28

縄瀬 保育園

山元 紀代美

NO4

一人ひとりを大切にする保育

6月18, 19日、兵庫県宝塚市のやまぼうし保育園の吉本和子先生をお招きして、社協子育て応援課全体研修会が行われました。吉本和子先生は20年前から、一人一人の子ども達に真剣に向き合い、丁寧な保育を実践されています。子育て応援課でも、これまでの管理保育（一斉保育）に疑問を持ち、一人ひとりの子どもに丁寧に寄り添うということを真剣に考えた時に、この吉本和子先生の保育に深い感銘を受けました。吉本先生はとても著名な方で、海外からの視察もあるそうです。社協でも毎年、やまぼうし保育園まで視察研修に4～5名の職員が参加しています。本年度は9月に下池さんと林さんが行く予定になっています。

私も2年前の視察研修で、やまぼうしの子ども達ののびのびとして、自分から考えたり、工夫したりする姿、生活する姿を目の当たりにして本当に驚きました。園児たちの遊びのレベルの高さ、また、職員の口から「指示、命令、大きな声・・・」が全く聞こえないのには、これまでの自分の保育の誤りを認めざる得ませんでした。室内遊びではそれぞれが好きな遊びに没頭し、非常に落ち着いており、3歳児以上児クラスの積み木は、本当に子ども達だけで積み上げた物か？と思うほど大作で芸術的です。2歳児もパズル遊びなどでは集中し、30～40ピースにチャレンジしていました。もちろん戸外遊びも充実しており、年齢に合った遊びを楽しんでいました。みんなが、自信に満ち溢れた動きをするのを見ました。

0, 1, 2歳児は「育児担当制」です。担当者は保育園でのお母さんとして、子どもとの愛着関係を深めていきます。いつも同じ担当者と食事をしたり、着替えをしたり、眠ったり・・・担当は自分の子どものようにお世話をします。そうすることで子どもは「〇〇さんがいるから・・・」と安心して生活するようになります。自園でも昔は、園のペースに子どもが合わせていたのですが、現在は、一人ひとりのペースに保育士が合わせた保育に近づいています。まさしく十把一からげの保育ではなく、十人十色の保育の実践です。保育士は、一人ひとりの子どもを良く観察し、その子に応じた言葉がけをしています。子どもに寄り添うということを深く考えるようになりました。

私たちが目指す保育は、「主体的を育む保育」です。まだまだ認識の低い管理的に子どもを扱っている方々から、「自由でやりたい放題な保育」と言われることもあります。自由にも、約束やルールはあります。物を大切にすること、遊具を正しく使うこと、お友達の遊びの邪魔をしないこと、出来るだけ自分のことは自分ですること・・・など。そこから物事の良し悪しを考え、学び、判断できる子どもに育っていきます。いつもいつも、口やかましく指示・命令していると子どもは考えなくなります。指示・命令がなければ動けなくなってしまうのです。保護者・保育士は子どもに自立してほしいと願っています。しかし、時として、私たちの過干渉・先回りした言葉がけが子ども達の育ちにストップをかけてしまうことがあります。まだまだ保育士に「指示・命令の言葉が多いですよ!」「子どもに失敗をさせてください!」「もっと子どもを信頼して!」「ゆっくりでいいから!」とお願いすることもあります。保育士にとっては忍耐強く子どもを信じて、待つという難しい保育になってきます。管理保育・一斉保育の方が簡単なんです。だって子どもの思いは関係ないのですから! 保育士主導型ですから! でもそれでは子どもが育たないんです。

教育とは

- ① ひたすら子どもを愛すること
- ② 子どもを発達させること
- ③ 大人がモデルを見せること (パスタ・ロッチ)

学ばなければならないことがたくさんです。でも保育を今、変えなくては!と思っています。

